

学 科	服飾美術学科	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	アパレル企業実習		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・前期(集中)
授業の主題 目 標	大学で学んだ服飾美術の専門知識と技術をもって、企業におけるアパレル生産・流通等を実際に体験して、量産システムにおける知識と技術を学習すること及び職業人としての自覚を涵養する。				
授業の内容 進 め 方	<p>1. 服飾材料生産工程見学 服飾材料を生産している、織物及び染色工場を見学して、基礎知識を習得する。</p> <p>2. 工場実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習は、基本的には実習受け入れ企業の事業内容、実習受け入れ態勢及び勤務規則に従って実施する。 2) 1社当たり2~8名単位で実習する。 3) 実習内容については、企業と大学間で打ち合わせた基本線に準じて企業が詳細計画を作成し、担当指導者またはその代行者の指導の下で実施する。 4) アパレル企業における工場実習例を次に示す ; <ul style="list-style-type: none"> ①全般概要 ②CAD・CGによる作業 ③量産方式による縫製実習 ④仕上げ ⑤商品検査 <p>3. 見学及び実習期間 原則として、工場見学1日、工場実習2週間。</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『ひとはなぜ服を着るのか』鷺田清一(ちくま文庫), 『河北秀也のデザイン原論』河北秀也(新曜社), 『アパレル科学概論(生活環境学ライブラリー)』松生勝 編著(朝倉書店), 『平成30年度80テーマで要点整理ITパスポートのよくわかる教科書(情報処理技術者試験)』福嶋宏訓著 原山麻美子 編著(技術評論社)</p>				
準備学習の 具体的な内容	<p>企業実習先の予備調査をすること。 訪問先の企業について事前調査すること。</p>				
評価の方法 基 準	<p>実習先の評価(80%) 実習日誌・レポートの評点(20%)</p>				
履修上の 注 意	<p>実習先会社毎の就労規則に準じて実習するので、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないことや安全守則を厳守することなどの社会人としての規律と自覚を持って実習することが必要である。</p> <p>実習希望者が企業の受け入れ人員より多い場合は、衣料管理士希望者及びアパレル企業就職希望者が優先して履修する。</p>				